

STEP BY STEP

袴田事件が再審開始決定！

先日、日野町事件、袴田事件とも高裁の再審開始決定が出されました。しかし日野町事件は検察の特別抗告で先延ばしになりました。袴田事件は特別抗告阻止の運動が今までにない盛り上がりを見せ、何とか阻止することができました。

本当によかったです。しかし、この被害の責任は誰がとるのでしょうか？ 裁判長が謝罪をするかもしれませんが、このままでは誰も何の責任も取らないでしょう。証拠をねつ造した検察や警察は絶対に謝罪も反省もしないでしょう。それどころか「袴田巖が真犯人であることに間違いはない」と平然と言うかもしれません。

責任を問うのは国賠という方法がありますが、それも袴田さんにさらなる闘いを強いることになります。たとえ国賠で勝ったとして、損害賠償は私たちが納めた税金で支払われます。証拠をねつ造した警察、見て見ぬ振りした検察、見抜けなかった裁判所、誰の腹も痛まないのです。だからこそ、いちばん大事なことは、この大きすぎる犠牲を法改正へつなげることです。

●冤罪を生まないために、代用監獄廃止、証拠の改ざんやねつ造、偽証に関わった「個人」に対する罰則規定 ●冤罪を速やかに救済するための再審法改正

やりましょう。春の嵐を吹かせましょう。（事務局/野島美香）



再審開始決定後、報道陣に囲まれ、満面の笑みを浮かべる袴田ひで子さん。（3月13日東京高裁前にて）

満期出所まであと10ヶ月 畠山博



40代半ばの畠山博さん

いつもお世話になっております。畠山博と申します。文章を書くのは苦手なので躊躇いましたが、出所まで残り10ヶ月を切ったことですし、そろそろ自分の気持ちを書いて読んでいただきたいと思い、ペンを取らせていただきました。

私自身、まったく身に覚えのない事件に遭ってしまい、頭の中も混乱していて、今現在も不思議に思っています。私の事件は、当時親しくしていた女性が、自分の子に対して育児放棄という児童虐待を行ったことが発端です。その女性が以前から精神科病院に通っていて、虚言癖があるということを知りませんでした。逮捕された後に、支援者から初めて聞かされました。

私は子どもが大好きで、彼女の子どもも私になついていました。当時はこのような悲劇になるとは全く思っていませんでしたし、こうなる前にもっと一緒に遊んであげれば事件は起きなかったと思います。女性が子どもを虐待していることを見抜いていれば、事件は起きなかったわけですし、助けてあげれなかったことを悔やんでいます。

任意で連行されてから、取り調べは暴言暴行の繰り返し。供述調書も私の言葉ではなく、捜査官の脅迫による誘導で引き出されたもので埋められました。私は嘘をつくのが下手でしたが、また捜査官から暴行され強要されるのかと、ビクビク怯えながら取り調べを受けるという状況でした。ずっと否認していれば、こんなことにはならなかったのかもしれませんが。全ては警察による作文です。彼らの言うとおりに答えずに、酷い仕打ちを受けることが怖かったのです。

現在、某大学に心理供述鑑定を依頼していますが、まだ返事はありません。出所すれば弁護士さんとも楽に打ち合わせできます。いろいろアドバイスを受けながら、再審請求申立てを目指すしかありません。ハードルは高いですが、この17年間の悔しい気持ちを思い出しながら、再審無罪を勝ち取るまで闘ってまいります。

両親も高齢となり、父親は認知症で入院しています。親にも無実を報告して親孝行したい、安心させたいと思います。出所したら皆さんの仲間になりたいと思っていますので、どうぞよ

ろしくお願い致します。

昨年から今年にかけて、山形刑務所ではコロナのクラスターが発生して、作業が停止となる日が続きました。いつまたコロナが再流行するのか分かりませんが、私はワクチンを4回打っているので大丈夫かもしれません。大変な状況が続きますが、皆様もお身体を大切に、気をつけてお過ごしください。今後とも宜しくお願い致します。(2023年2月26日/畠山博)

p. s. 今年でちょうど60歳。今年は何男です。

<事件概要>2006年10月23日、無実の畠山博さん(当時45歳)が、交際中の女性と共謀してその女性の息子に暴行を加え、殺害したとされた秋田・大仙市事件。一、二審で殺人の共謀共同正犯として有罪(懲役16年)とされ、昨年7月に最高裁で刑が確定しています。

事件から60年 「次は狭山」の声を上げる

事務局/野島美香

狭山事件は1963年5月1日、オリンピックを1年後に控えたメーデーに起きた。石川一雄さんは事件当時24歳、部落差別によって小学校も満足に通えなかったために文字の読み書きができなかった。真犯人が唯一残した脅迫状は技巧的で、非識字者に書けないことは明らかだった。

有力な証拠とされた「被害者の万年筆」は石川さんが逮捕拘留中に石川さんの自宅から発見された。この発見過程が袴田さんのズボンのとも布と同じ手法だ。2度の徹底的な家宅捜索でも見つからなかったものが、石川さんの「自白」によって、あっさり見つかった。しかもインクの色が被害者の物とは違っていた。当初からねつ造が指摘されていたが、裁判所は自ら「インク補充説」を展開して証拠と認めてしまった。

石川さんは1審の間中、自白を維持した。下された判決は「死刑」。その後獄中で三鷹事件の竹内景助さんと出会い、警察に騙されていたことに気づく。無知に付け込み、騙して死刑に追い込んでいく権力。石川さんの悔しさは想像することすら難しい。この後悔がバネとなって、獄中で文字を学び、控訴審から本当の闘いが始まる。しかし1974年10月31日、寺尾裁判長は無期懲役の判決を下した。

第3次再審請求からすでに17年がたつ。なぜこれほど長くかかったかと言えば、検察が証拠開示に応じないことや、反論に時間がかかりすぎるからだ。もうひとつ、狭山事件の証拠構造にある。狭山はそれ一発で有罪になるような有力な証拠はなく、自白と7つの状況証拠、3つの「秘密の暴露」がある。このような証拠構造の場合、全てを潰す新証拠が必要だ。三者協議でも威圧的で証拠開示に応じない検察、消極的な裁判所、弁護団が彼らを粘り強く説得して細々と出てきた証拠から、無実の証拠を探し当て、新証拠を提出してきた。気の遠くなるような作業である。

それらもようやく出そろいつつあり、昨年8月に11人の鑑定人尋問と裁判所主導でインクの鑑定をするよう要請書を出した。これを実現するために、あらゆる方法で世に訴えていきたいと思う。

石川さんと袴田さんは東京拘置所で6年間「獄友」だった。同じ冤罪を背負わされたもの同士、励まし合ったという。袴田さんはようやくゴールが見えてきた。袴田さんの再審開始決定を我がことのように喜んだ石川さん。今度こそ「次は狭山！」の声を上げていきたい。



袴田巖さんと石川一雄さんは「獄友」。石川さんは袴田さんをイワちゃんと呼んでいた。

※オンライン署名にご協力をお願いします。

<https://chng.it/RmSFmxSnqM>



■獄中から無実を叫ぶ～平野義幸展■

2023年5月13日（土）14日（日）10時～17時
場所：ふれあい健康館（きっかけ空間）
住所：徳島県徳島市沖浜東2-16

平野義幸さん（58）は無実にも係らず、放火殺人犯の濡れ衣を着せられ、徳島刑務所に服役中。彼は逮捕直後から一貫して無罪を主張し、現在も再審請求申立てを準備中。今回の絵画展は事件について、大地義幸の名で俳優としても活躍していた彼自身について、知っていただき、理解を深めていただくために企画されました。

主催：平野義幸さんを支援する会
代表：青木恵子
担当弁護士：堀和幸（京都弁護士会）
問合せ：saveyoshiyukihirano@gmail.com



獄中から無実を叫ぶ
平野義幸展
Yoshiyuki Hirano exhibition 2023

「獄中のひまわり」
日時：2023年5月13日（土）、14日（日）
場所：ふれあい健康館 きっかけ空間（ギャラリー）
10:00～17:00
徳島県徳島市沖浜東2-16
徳島駅からのアクセス：徳島市営バス
徳島駅前3番のりば乗車「ふれあい健康館」下車
主催：平野義幸さんを支援する会（代表 青木恵子）

作者自画像

■今月もオススメ■



桜井昌司さんが獄中でしたための詩を収めた『壁のうた』は残念ながら在庫切れとなってしまいました。しかし、この詩集を読みたい！ という方が後を絶たず。そこで、89編を選んだ『桜井昌司獄中詩抄』復刻版が発売されました！

気になるお値段ですが、1冊のみの発送はしていませんが、1冊なら送料込み1000円。2～9冊の場合は1冊700円（発送費込）。10冊以上ご注文の場合は、1冊500円プラス発送費1000円です。

お申し込み方法はメールの場合は、info@enzai.org まで。お電話の場合は、090-6474-4705（中澤）へ宜しくお願い致します。

■冤罪ラジオ番組「塀の中の白い花～ほんとに何もやってません」のクラウドファンディングがスタート！■



冤罪が誰にも身も起こりうる身近な問題であることをお伝えする日本で唯一の冤罪ラジオ番組『塀の中の白い花～ほんとに何もやってません』（FMたちかわ/84.4MHz/第1・3・5月曜日 23:30）が好評放送中！

ポッドキャスト（過去放送分のアーカイブ）はネットがあればPCでもスマホでも、いつでもお好きなときに無料で聴くことができます。<http://enzaibusters.seesaa.net>

同番組の継続のためにはラジオ局に支払う電波使用料（電波上のアパート代のようなもの）が必要です。そのため、今年も資金集めのためのクラウドファンディングがスタートしました。冤罪は減るどころか、ますます増え続けています。再審法改正を見届けるまでは意地でも番組を続けるぞ！ と決意を新たにしております。

これまでもたくさんの皆さんに支えられてきましたが、今年も引き続き、ご支援ご協力をお願い致します。URLは下記になります。

<https://readyfor.jp/projects/nomore-enzai>

クラウドファンディングにアクセスできない方は直接お問い合わせください。

問合せ：satoshinatsushi@gmail.com

■ちょっと一言■

袴田事件では、「特別抗告するな」の抗議電話、抗議ハガキなど多くの方が声を上げました。弁護団による署名運動は3万筆を越え、日本プロボクシング協会が主導したツイッターデモは14万人の方がツイート、あるいはリツイートをしました。これだけ多くの方が特別抗告に反対しているということは検察も肌身で感じていたはずです。

家族全員がマイナンバーを持っていないと給食費無償化はできない、という方針を打ち出した岡山県備前市にも抗議の波が押し寄せました。その抗議に対して備前市は「強権的だとは思わない。方針を変えるつもりはない」と強弁しました。しかし、それでも止まない抗議に対して、備前市は白旗を上げ、遂に「撤回」をしました。彼らは公務員。市民の声を無視することはできないのです。

統一地方選が23日に終わりました。残念ながら、ここ数年、選挙での投票率は40%前後を推移しています。ああ、もったいない！ 選挙権を行使することと声を上げることは私たち権利なのです。

検察官も市役所の職員も公務員です。私たちが払う税金で喰っている人たちです。だから雇い主は私たち国民なのです。私たちがこの国の主なのです。彼らは私たちの声を無視できません。ちゃんと働かない公務員に対して抗議をするのは当たり前ではないですか。

無実の人を無理矢理犯人に仕立て上げてしまうような捜査を行った警察や、証拠の改竄、捏造を行う連中を許すわけにはいきません。声を上げ続けて、声をもっと大きくしましょう！（なつし聡）

■■冤罪犠牲者の会は当会の主旨に賛同していただける仲間を集めています！ ■■

「冤罪犠牲者の会」が結成されたのが2019年3月2日。お陰様で少しずつ会員が増え、現在、220名を超えました。冤罪に巻き込まれてしまい、闘っている人、再審を目指している人、無罪を勝ち取った人が約50名、獄中で無実を叫んでいる人が約25名、近親者・支援者が約145名で構成されています。冤罪撲滅に力を貸してくださる方を募集中です。冤罪に関心をお持ちの方がお近くにいらっしゃったら是非、声をかけてあげてください。

年会費：個人会員（正会員）2000円（賛助会員）1000円

「冤罪犠牲者の会」の口座

◎現金払込・ゆうちょ間送金の場合

記号番号 00150-7-515181

口座名称 冤罪犠牲者の会

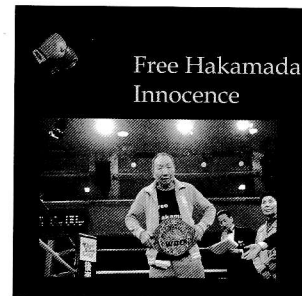
◎他行からの送金の場合

金融機関 ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）

支店 ○一八店（ゼロイチハチ店）店番 018

預金種目 普通 口座番号 9884160

口座名義 エンザイギセイシヤノカイ



■CD「Free Hakamada」発売中！

Amazonや全国のCDショップでご注文できます。売上は冤罪撲滅を目指す支援団体に寄付します。

◎PayPalでの振り込みは当会ホームページの「当会について」から「入会のお申込み」ページにある会費支払方法をご参照ください。

◎冤罪犠牲者の会事務局は常駐スタッフがおりません。複数の冤罪関連団体が桜井司法研究所を共有しています。お急ぎの場合は080-5182-3911（冤罪犠牲者事務局長：なつし聡）へお電話ください。個人の電話番号ですので、この点はご了承ください。

発行：冤罪犠牲者の会

〒160-0023東京都新宿区西新宿7-5-13 第3工新ビル201号室（桜井司法研究所内）

<https://enzai.org/> e-mail : info@enzai.org

発行責任者 なつし聡